

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。
よきリーダーに、よき上司になるために。



嶋津良智 ■リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第5回 楽しみながらの人生

友人の娘さんの一言が印象に残りました。わたしが著書で書いた「学びはプロセスからのみ得られる」という言葉とともに、「結果主義」について考えます。

以前、わたしの友人の娘さんが、マレーシアでボランティア活動をした帰り道にシンガポールへ遊びに来て、わたしの自宅に2日間泊まっていったことがありました。わたしには娘がいないので、娘を持った気分になり、楽しいひとときを過ごすことができました。

わたしの友人は、若くして子供を産んだので、娘さんはすでに21歳の独り立ちをした立派な大学生。その彼女と過ごす中で、ものす

ごく印象に残った言葉があります。それは、「お金があれば、何でも手に入って幸せだけど、本当の幸せってなんなんだろう？」わたしは、今回ボランティア活動をして

いる時、日差しの強い中、水が少なかったから、生ぬるい水をチビチビ飲んでいました。その活動終了後、近くのお店まで15分くらいいかつたけど、みんなで話しながら買いに行ったコーラの方が、お金があつて、目の前にあるコンビニですぐ手に

入ったコーラを飲んだときよりも、はるかに楽しくて幸せで、わたしにとつて、ものすごく価値があつた」という言葉でした。彼女はこの体験からきつと多くのことを学んだのでしょうか。

わたしの著書『雨がふってもよるこぼろー』（フォレスト出版）の中で、「結果は得るものであつて、学ぶこととはない。学びはプロセスからのみ得られる」と書きましたが、この場合、「コーラを飲む」という得られる結果は変わりありませんが、コーラを飲むまでのプロセスで、お金があつて目の前にあるコンビニで買うコーラよりも、ボランティア活動を通して苦労を分か

ち合った後、手に入れたコーラの方がはるかに価値があつたということですよ。

わたしはアウトプットされた結果のみを評価する「間違つた結果主義」を導入している企業が気になります。この例を見れば分かるように、わたしは、本当に部下・従業員の成長を願うのであれば、その結果を得るために、どういったプロセスを踏んだかをもっと大切にすべきだと考えています。あまりにも結果だ！結果をあげれば何をやってもOKのようなことをしてしまつた結果が、今、世界同時不況を起こした金融危機の原因の一つではないでしょ

うか。

人は元来「何のために生まれてきたのか？」を考えれば分かるように、楽しむことを忘れてはなりません。しかし、あまりにも行き過ぎた結果主義になりすぎると、いつのまにか「楽しむため」に生きていく人生になり、「楽しみながら」生きる人生を忘れてしまうような気がしてなりません。

どんな世界であろうがプロとして働いているわれわれは、求められるものが結果なのは十分に分かっているはず。しかし、大切なのは、その結果を出すためのプロセスなのです。

わたしはまだまだ若輩者ですが、それなりの経験の中から、今だからこそ結果を出すためにプロセスこそが大切だと言えるのです。だから、わたしは強烈なプロセス思考なのです。皆さんの会社では間違つた、行き過ぎた結果主義で人を動かしていませんか？